

私の願いと税金の使い道

旭川市立愛宕中学校 三年 島田 将丞

私は中学三年生です。私の学校のクラスにはエアコンがなく、今年の夏はとても暑くて勉強に集中するのが難しい日もありました。教室にはスポットクーラーがあるだけで、窓を開けても暑さはやわらぎませんでした。そんな中で授業を受けるのは、体力的にも精神的にもとても大変でした。私は毎年「どうしてエアコンがないのだろう」と思いながら夏を過ごしてきました。

ところが、最近になって「来年のクラスにはエアコンがつく予定だ」と聞きました。私は嬉しい気持ちと同時に、少し悔しい気持ちにもなりました。なぜなら、私は来年卒業してしまうからです。「どうして私が中学校にいるうちにつけてくれなかったのか」と思ってしまった。来年の後輩たちが快適な教室で勉強できるのはうらやましいですが、それでもよかったなと思う気持ちもあります。

でもよく考えてみると、エアコンをつけるためにはお金がかかるし、それはすぐに行うことではないと気づきました。そしてそのお金の多くは、税金によってまかなわれているということを、授業で習ったり、配られたパンフレットで知ったりしました。税金は私の生活を支える大切な財源なのです。

税金は私たちが安心して暮らせるように、いろいろなことに使われているそうです。道路や病院、警察や消防、学校の運営にも使われています。そして、来年私の教室にもエアコンがつくというのは、その税金のおかげなのかもしれません。エアコンだけでなく、教科書や校舎の整備にも税金が使われていると聞いて、税金の役割はとても大きいと感じました。

私は「もつと身近なところにも税金を使ってほしい」と思っていました。実際には少しずつでも必要な場所に届いていることを知りました。そして、自分の暮らしの中で税金がどんな役割を果たしているのかをもっと知りたくなりました。ニュースや新聞を見ると税金の使い道についての話題がたくさんあります。なかにはこれは無駄遣いではないのかな？と疑問に思えるものもありますが、それらのことに不平不満を言うだけではなく、社会全体で税の使い道にもう少し関心をもつて税のあり方を考えていかなければならないと感じました。これを機会に私自身も、もつと関心を持って見ていきたいと思います。

将来、私が大人になって働くようになったら、税金を納める立場になります。そのときには、今のような暑くてつらかった思い出が、少しでも減るように、自分が納める税金が誰かの役に立っていると思えるような社会になってほしいと思います。税金を納めることが誇らしく思えるような、自分自身の暮らしにもつながるような、そんな未来を願っています。